樹脂製水道用量水器ボックス規格書

１. 適用範囲

この規格書は、奈良市において使用する樹脂製水道用量水器ボックス（φ13粍、φ20粍、φ25粍）について規定する。

２. 構造及び形状

樹脂製水道用量水器ボックスの構造及び形状は図－3のとおりとし、以下の構造を有するものとする。

Ⅰ） 蓋部と受枠が取り外し可能で、それぞれが交換可能であること。
Ⅱ） 蓋部の開閉は滑らかで、100°以上開き、安定なこと。
Ⅲ） 蓋は感応板をインサートすること又は蓋裏面に設置することにより、金属探知機が容易に反応を示すものとする。なお、蓋裏面に設置する場合の感応板はSUS製とし、タッピングビス等で確実に固定すること。

３. 材質及び寸法

３－１ 材　質

品質および安全性については、材質の関係法令や業界基準等に適合していること

蓋　　部・・・原則黒色
FRP製　、再生PET製又は同等以上の強度を有するもの。

受　　枠・・・原則黒色
ABS樹脂製　、再生PET製又は同等以上の強度を有するもの。

適応荷重 ・・・ 破壊荷重 ＞ 17KN

蓋の中央に良質のゴム板を敷き、その上に125×200mm角、厚さ30mmの載荷板をおく。その箇所に表－1に示す試験荷重を図－1に示す要領で、一様な速さで5分間以内に加える。規定の荷重を加え1分間保持した後、割れ及び、ひびの有無を目視によって調べ、割れ及び、ひびがあってはならない。

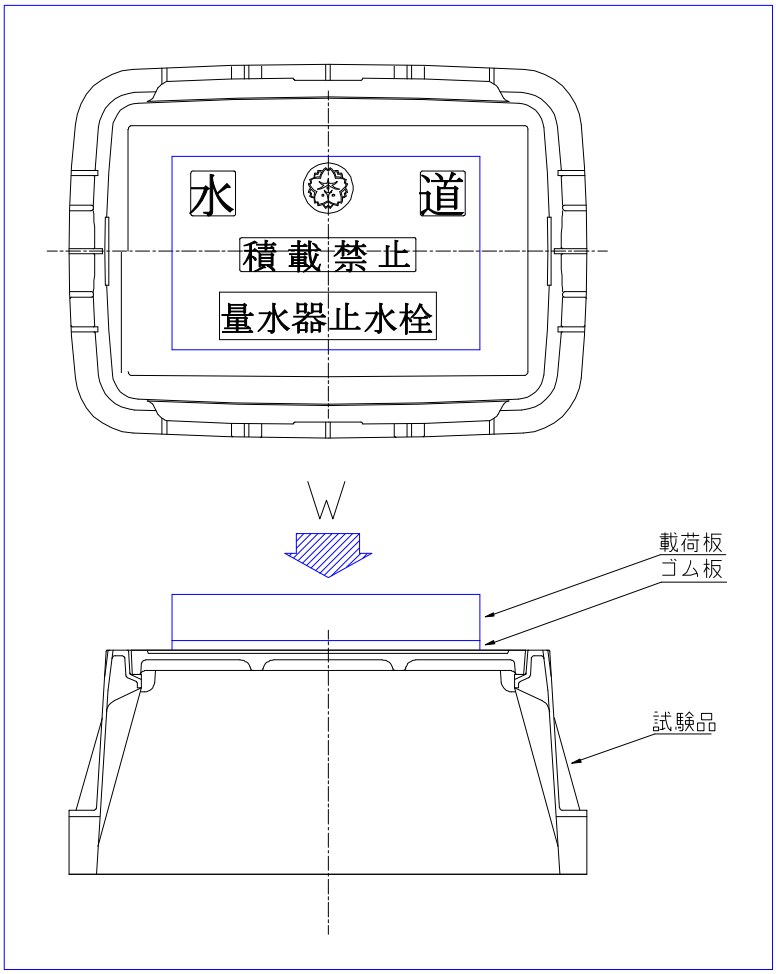
また、蓋の操作性は開閉が容易に行なわれ、蓋と受枠とのがたつきがあってはならない。

なお、水道用量水器ボックスの試験温度は20℃±3℃とする。

表－1 耐 荷 重 性 の 試 験 荷 重

種　　類	載 荷 板 （mm）	耐 荷 重 （KN）
φ 13 粍 用	125×200、厚さ30	17以上
φ 20 粍 用		
φ 25 粍 用		

図－1 荷 重 試 験 要 領 図



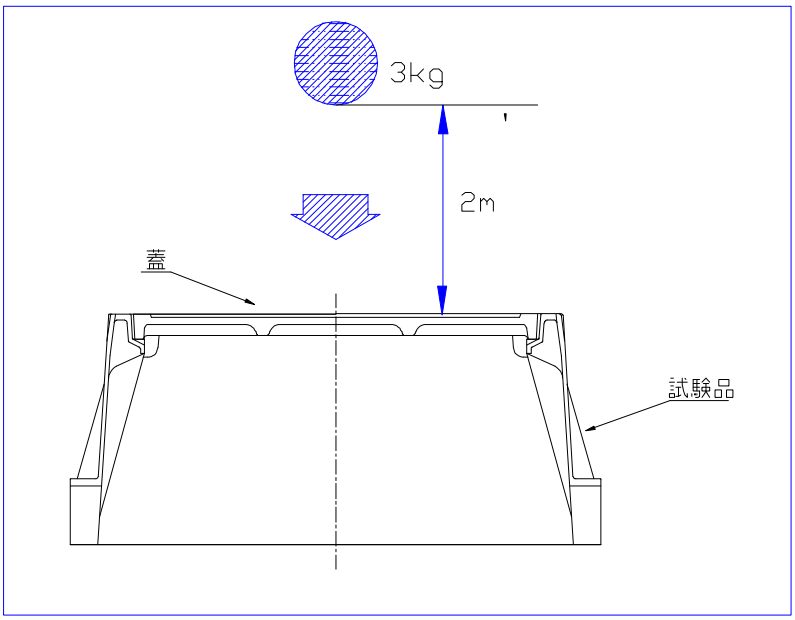
耐球衝撃性・・・ 検査は、製品の蓋の中心に鋼球（重さ3Kg）を図－2に示す要領で自然落下させる。ただし、落下回数は1回とする。

検査基準は表－2のとおりで、この値に適合しなければならない。また、蓋の操作性は、開閉が容易に行なわれ、蓋と受枠とのがたつきがあってはならない。

表－2 衝 撃 性 検 査 基 準

鋼球の重量	落下高さ	基　　準
3kg	2m	貫通破壊しないこと

図－2 衝 撃 試 験 要 領 図



3－2 寸　法

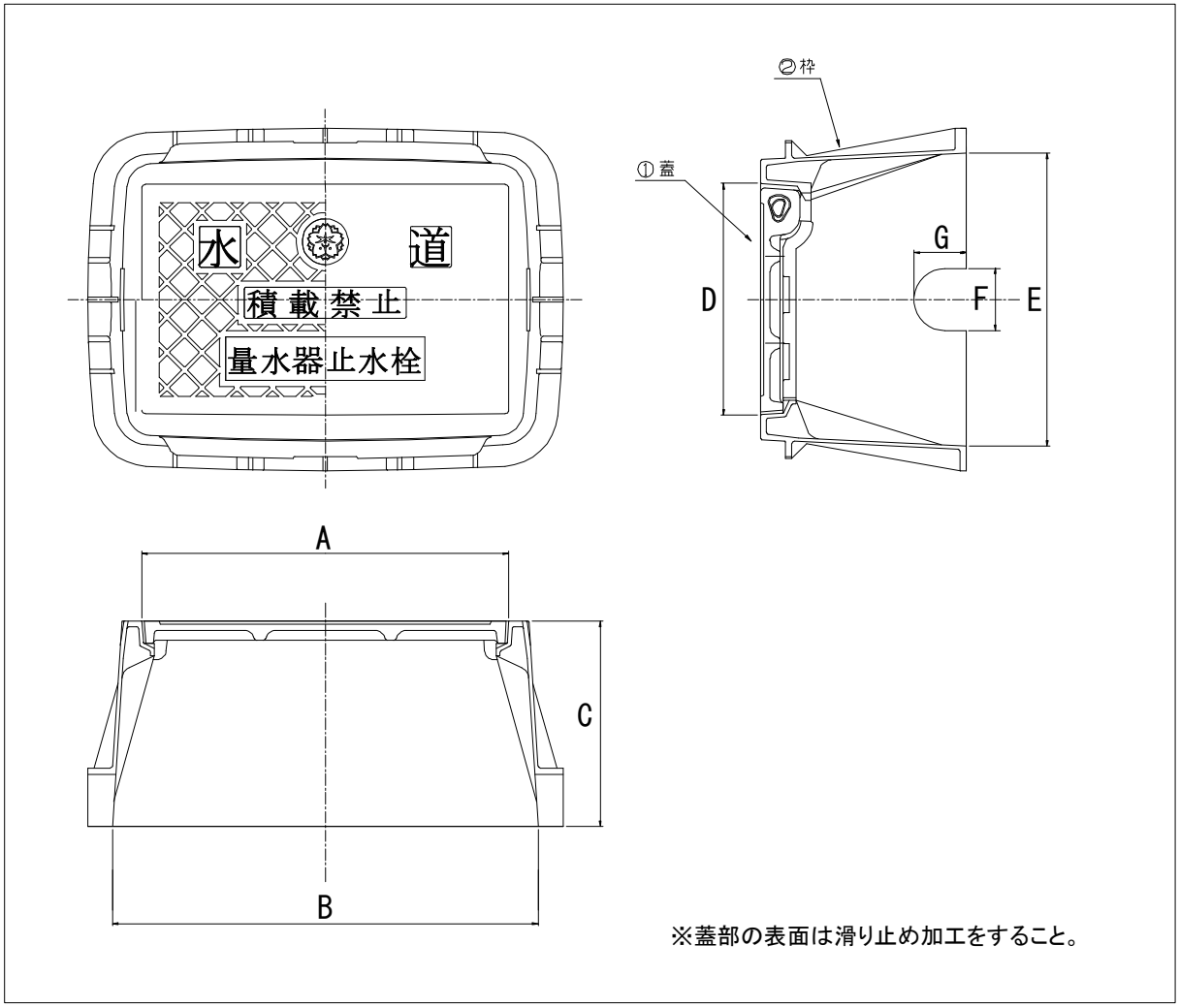
寸法規格は表－3及び図－3によるものとする。

表－3 寸 法 規 格 表

記号は図― 3 参照　（単位mm）

種　類	A	B	C	D	E	F	G
13粍用	290～350	340～400	160～190	180～210	230～260	50～60	40～60
20粍用	420～490	470～540	180～210	200～240	260～290	50～70	40～70
25粍用	500～600	550～650	200～230	230～300	280～350	60～90	40～90

図－3 参 考 図



4. 表　示

Ⅰ） 蓋部の表面には、「奈良市」もしくは「奈良市章」を表示すること。

Ⅱ） 蓋部の表面には、「量水器止水栓」、「止水栓量水器」もしくは「量水器」を表示すること。

Ⅲ） 蓋部の表面は、滑り止め加工をすること。

Ⅳ） 蓋部の裏面には、容易に消えない方法で、次の事項を明示すること。

① 製造業者名又は略号

② 製造年（西暦下２桁）

5. 検査要領

Ⅰ） 外　観

Ⅱ） 材　料

Ⅲ） 構造、形状及び寸法

Ⅳ） 性能（耐荷重性、耐衝撃性、操作性）

Ⅴ） 表　示

6. 届出について

Ⅰ） 製作図及び検査要領書を作成し、本市に届出をすること

Ⅱ） 本市に届出している内容に変更が生じる場合は、変更届を提出すること。

7. 納入について

この規格書に基づき検査を行い、品質が規格書通りであることを確認し、納入すること。

改定日　令和　5年　10月　1日